

வணக்கம்

Satomi Wada
சதோமி வடா



Kokkuvil Vigneswara Vid. の児童生徒と

வணக்கம்(ヴァナッカム=こんにちは) **எப்படி சுகம்?**(エツパディ スガム? =元気ですか)
2017年4月から独立行政法人国際協力機構 JICA 青年海外協力隊としてスリランカのバットिकाロア県に環境教育隊員として派遣されている、和田さとみです。バットिकाロア市役所に配属されて8ヶ月になります。この通信を通じて、スリランカの風を少しでも感じてもらえたら幸いです。

新たな開拓① 校長会議に潜入！

これまでの半年は、任地の現状把握と、与えられた任務をこなしていく、という活動が主でしたが、現地語であるタミル語で日常会話が自由できるようになり、任期も1年となった今、もっと活動範囲を広げていきたいと思うようになりました。これまで、配属先であるバットिकाロア市役所からは、保健省が指定する小中高等学校10校を巡回してほしい、という要請でしたが、より多くの児童生徒、教育に携わる先生や指導者と連携し、環境教育を展開したいと考え、校長会議で活動紹介をさせてもらえないか、と直属の上司に相談しました。



↑校長会議の様子



↑バットिकाロア地区の校長先生方

上司はわたしの提案に対して、教育効果が高いと判断し、その場で教育委員長に連絡をしてくださいました。があったら学校訪問させていただく、という形を取りました。配布アンケートの結果、全65校の内、63校から申請がありました。現在は、学校の事前訪問・打ち合わせと授業に追われる毎日です。任期中に全ての学校を巡回するつもりです。これまでの人生の経験に無駄なことは一つもなく、全て必要な経験だった、と実感しています。

上の写真はその活動紹介の様子です。興味63校から申請がありました。現在は、学校のここでは、学校教育現場での経験が生きてい

～ 学校訪問の手順 ～

- ① 学校訪問時の日程調整
↓
学校に電話連絡
- ② 学校訪問
↓
校内視察、先生方と顔合わせ、学校情報調査、日時・対象年齢・場所・機材・教材の確認
↓
学校の実態レポート作成※
- ③ ワークショップ実施
↓
定期訪問の場合、3回実施
1:ポイ捨て 2:コンポスト 3:リユース
- ④ モニタリング・アンケート実施
↓
分析後、※のレポートと共に学校へ送付

その後、希望があれば、継続的に訪問
ワークショップは定期訪問か一度きりの訪問かどちらかを校長先生に選択してもらいます。



ワークショップ後にゴミ拾いをする子どもと先生



学校のゴミ箱の中、適切に分別されているかな？



分解順に並び替えてみよう。



市役所の分別パンフレットを先生や生徒に配布

新たな開拓② 最終処分場の緑地化計画



労働者への企画・提案プレゼンテーション



現在の処分場 ペットボトルを再利用した庭造り

バツィカロア市では、最終処分地に住む住民と、市役所の対立が長年に渡って続いており、私が赴任した頃は、処分場が放火され、ゴミの回収がストップしてしまう事態で、状況は非常に緊迫していました。しかし11月に新しいコミッショナー(市役所のトップ)が着任してからは、裁判を経て、現在、新地になっています。そこを新規開拓できないか、という相談を上司から受けました。私は、着任当時から環境教育の一環で、次世代の子どもたちがゴミの処分場を見学できるようなくみをつくりたいと考えていたため、そこを緑地化し、有機ゴミから作るコンポストの堆肥で野菜や花作りをして、検査で問題がなければ、市場で販売したらどうか、という内容の提案文書を作成しました。子どもたちが訪問することで、労働者の士気が高まると考えました。活動に際して、労働者のモチベーションを上げるために、グループを3つに分割し、廃棄タイヤやペットボトルなどを再利用して、家具や小さな小屋、フラワーポット作りをし、一番魅力ある庭にしたチームには、コミッショナーから賞がもらえる仕組みを提案しました。その場所で、労働者自身も仕事の合間に休めるように、自分たちが居心地のよい空間を作ってもらおうのです。汚い、臭い、危険・・・マイナスのイメージしかなかった最終処分場をプラスのイメージの場所に変えていく計画です。わたしたちは、ごみから逃げることはできません。では、どうやって共存していくか。最終処分場は、将来的には、それを考えるためのきっかけの場所となることを願っています。これは配属先のバツィカロア市役所の願いだからです。現在は、保健省の専門医と共に処分場を定期的に訪問して、緑地化計画を進めています。

スリランカの豆知識：スリランカ新年

「太陰暦」に従い、4月13日・14日の2日間は「シンハラ・タミル新年」として祭日です。勿論、グレゴリオ暦の1月1日も新年の開始の日として祝われますが、この日はそれほど大々的に祝うことはなく、スリランカでは「シンハラ・タミル新年」の方が重要です。新年が13日か14日になるかは占星術によって毎年変わります。日本の年末と同じように4月13日前後は、多くの商店で新年セールが行われ、食べ物や衣料品を購入する人々で商店は賑わいます。家では大掃除を行い、新年を迎えます。

スリランカの新年は朝から大忙し。ヒンドゥ教の多いタミル人の新年は、初日の出前に、ターメリックが入った聖水を浴びた後、ヘッドバスを済ませ、新調した服を着ます。その後、「ボンガル」というココナツミルクライスを炊いて、太陽神に奉納します。そして、家の玄関前に、「コーラン」という、デザイン画(ココナツの削り節に色をつけたもので良い縁起をもたらすモチーフ)を描いた後、お寺へ初詣に出かけます。信仰心が強い家族ほど、お寺をたくさん参拝します。私は、大家さんとともに、3つのヒンドゥ寺院を参拝しました。

初詣後には、新年の挨拶と共に、年長者は年少者にお金を渡します。(日本の「お年玉」と同じ)そしてその後、新年の食事となります。これら一連の儀式は占星術で縁起がよいとされる時間が全て決まっています。(余談ですが、普段、時間をあまり気にしないスリランカ人が、この日はかなりは時間厳守で粛々と儀式を行っていく様子に、個人的に驚かされました。)



↑新年の儀式(聖水)を体験



↑ココナツライス「ボンガル」



↑ヒンドゥ教寺院



↑スリランカのお年玉・・・菩提樹に縁起物を添えて



↑大家さんの娘と描いた「コーラン」



↑大家さんの家の祭壇



ではNo.7で会いましょう!

国際協力に興味のある人は 独立行政法人国際協力機構

(JICA) <https://www.jica.go.jp/> をチェック!